

定期作況報告

(第3号 平成23年7月20日現在)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

6月下旬：最高気温は平年より 2.1℃低く、最低気温も平年より 1.3℃低かった。降水量は平年より 7.5mm 少なく、平年対比 76%であった。降水日数は平年より 1日少なかった。日照時間は平年より 12.6時間少なく、平年対比 77%であった。夏日（最高気温 25℃以上）は 4日、真夏日（最高気温 30℃以上）は無かった。

7月上旬：最高気温は平年より 1.8℃高く、最低気温も平年より 3.6℃高かった。降水量は平年より 26.9mm 多く、平年対比 183%であった。降水日数は平年より 1日多かった。日照時間は平年より 7.7時間多く、平年対比 117%であった。夏日は 7日、真夏日は 1日であった。

7月中旬：最高気温は平年より 0.4℃高く、最低気温も平年より 1.1℃高かった。降水量は平年より 21.8mm 多く、平年対比 133%であった。降水日数は平年並であった。日照時間は平年より 10.8時間多く、平年対比 128%であった。夏日は 5日、真夏日は無かった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	22.6	24.7	▲ 2.1	26.7	24.9	1.8	25.2	24.8	0.4	24.8	24.8	0.0
最低気温(℃)	12.2	13.5	▲ 1.3	18.1	14.5	3.6	16.8	15.7	1.1	15.7	14.6	1.1
平均気温(℃)	17.4	18.7	▲ 1.3	22.0	19.3	2.7	20.5	19.7	0.8	20.0	19.2	0.8
降水量(mm)	24.0	31.5	▲ 7.5	59.5	32.6	26.9	87.0	65.2	21.8	170.5	129.3	41.2
降水日数(日)	3	4	▲ 1	4	3	1	5	5	0	12	12	0
日照時間(hr)	41.7	54.3	▲ 12.6	52.2	44.5	7.7	49.2	38.4	10.8	143.1	137.2	5.9

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事由：6月中・下旬の低温日照不足により生育は遅れ、幼穂形成期は平年に比べ4～6日遅かった。7月からの高温・多照により生育は回復し、止葉期はほぼ平年並となった。

7月20日現在の主稈葉数は平年に比べ0.2～0.3枚多く、 m^2 当たり茎数の平年対比は「ほしのゆめ」が99%、「きらら397」が94%、「ななつぼし」は89%で平年並から10%程度少なかった。草丈は平年より1～4cm程度高かった。

以上、 m^2 当たり茎数はやや少ないものの生育が平年並に回復したことから、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品種名 苗	幼穂形成期(月・日)			止葉期(月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	6.27	6.23	4	7.11	7.10	1
きらら397 成苗	6.30	6.24	6	7.13	7.12	1
ななつぼし 成苗	6.26	6.22	4	7.11	7.10	1

注1) 平年値は平成16～22年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2mm。

3) 止葉期：全茎の40～50%の止葉が展開した日。

表3 7月20日現在の本田生育

品種名 苗	主稈葉数(枚)			茎 数(本/ m^2)				草 丈(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	10.3	10.0	0.3	779	785	▲ 6	99%	83.1	78.6	4.5
きらら397 成苗	11.4	11.1	0.3	711	760	▲ 49	94%	75.6	73.8	1.8
ななつぼし 成苗	10.6	10.4	0.2	656	734	▲ 78	89%	84.2	83.0	1.2

注1) 平年値は平成16～22年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) ▲印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦 : やや良

事由：出穂期は平年並であった。6月下旬は気温が低く登熟はやや緩慢であった。7月上中旬は降水量が多かったものの気温が高かったため登熟は順調に進み、成熟期はほぼ平年並であった。稈長および穂長は平年よりやや長く、穂数は平年を大きく上回っている。

したがって、目下の作況はやや良である。

表4 7月20日の秋まき小麦の生育

品種名	出穂期(月日)			成熟期(月日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きたほなみ	6.09	6.09	0	7.20	7.19	1

品種名	稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きたほなみ	88	85	3	8.9	8.5	0.4	843	678	165

注) 平年値は、前6か年中、平成22年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

3) 春まき小麦 : 平年並

事由：出穂期は平年より2日遅かった。7月上中旬は降水量が多かったため、稈長は平年を上回りやや徒長している。穂長は平年並で、穂数は平年よりやや上回っている。

したがって、目下の作況は平年並である。

表5 7月20日の春まき小麦の生育

品種名	出穂期(月日)		
	本年	平年	比較
春よ恋	6.22	6.20	2

品種名	稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
春よ恋	97	88	9	8.7	8.5	0.2	509	459	50

注) 平年値は、前7か年中、平成16年、22年を除く5か年の平均値。

4) 大豆 : 平年並

事由：開花期は平年より2日遅かった。主茎長は平年よりやや長く、主茎節数はほぼ平年並で、分枝数は平年より多い。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 7月20日の大豆の生育

品種名	開花期(月日)		
	本年	平年	比較
ユキホマレ	7.12	7.10	2

品種名	主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ユキホマレ	63.8	60.7	3.1	10.2	10.4	▲0.2	7.9	6.0	1.9

注1) 平年値は前7か年中、平成18年、22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

5) 小豆 : やや良

事由：6月第6半旬以降は高温傾向に経過し、6月第6半旬から7月第1半旬が少雨であった他は水分不足となることもなく、生育は順調に進んでいる。「エリモショウズ」の開花期は平年より1日早かった。主茎長、本葉数、分枝数は平年をやや上回っている。

したがって、目下の作況はやや良である。

表7 7月20日の小豆の生育

品種名	開花期(月日)		
	本年	平年	比較
エリモショウズ	7.20	7.21	△1
しゅまり	-	7.21	-

品種名	主茎長(cm)			本葉数(枚)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリモショウズ	38.6	30.9	7.7	9.6	8.9	0.7	6.4	5.5	0.9
しゅまり	39.4	31.8	7.6	9.2	8.5	0.7	6.5	6.1	0.4

注1) 平年値は、前7か年中、平成16年、平成20年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。

6) ばれいしょ : やや不良

事由：植付けが大幅に遅れたため、開花始は平年より3日遅くなった。上いも平均一個重、上いも収量とも平年を大幅に下回っているが、茎葉の過繁茂は見られず、上いも数、でん粉価は平年並みである。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表8 7月20日のばれいしょの生育

品 種 名	開 花 始 (月日)			茎 長 (cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男 爵 いも	6.27	6.24	3	49.8	53.0	▲3.2

品 種 名	上いも数 (個/株)			上いも平均一個重 (g)			上いも収量 (kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男 爵 いも	9.8	10.0	▲0.2	55	74	▲19	2380	3308	▲928

品 種 名	でん粉価 (%)		
	本年	平年	比較
男 爵 いも	13.6	13.4	0.2

注1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。